

厚生労働科学研究補助金(地域医療基盤開発推進研究)
医療安全センターと医療機関内患者相談窓口の地域における連携と人材育成のための研究
分担研究報告

医療安全支援センター総合支援事業「全国協議会」の参加者のアンケート分析から、全国協議会への参加者の期待を探る

分担研究者 児玉安司（東京大学・医学部附属病院・登録研究員）
研究協力者 山内桂子（東京海上日動メディカルサービス株式会社）
研究協力者 遠田光子（日本医療機能評価機構）
研究代表者 嶋森好子（岩手医科大学看護学部）

研究要旨: 医療安全支援センター相談員等の職員を対象とした研修の在り方を検討するために、医療安全支援センター総合支援事業の一環として行われた「2019年度医療安全支援センター全国協議会」に参加した医療安全支援センターの職員及び医療機関の医療安全対話推進者や安全担当等者の相談員の内、研究協力を承諾した参加者の協議会参加後のアンケートを集計・分析し、研修に対するニーズや提供すべき情報について考察した。その結果、支援センターの職員は、相談業務に役立つ知識や具体的な情報を求めていることが分かった。また、支援センター職員と医療機関の相談員は、互いの活動についての知識や情報が不足していると考えている。今後、連携を推進するためには、お互いの情報共有が必要であり、その機会を創る必要があることが明らかになった。

A. 研究目的

医療安全支援センター（以下支援センター）は、地域住民が安心して安全に医療を受けられるよう、医療法によって、都道府県等に設置が努力義務化されている。2019年12月時点で、全国に386の支援センターが設置されている。また、医療機関内には、患者に安全な医療を提供し、患者の医療に対する不安や不信を受け止めるために、医療安全対話推進者の設置や医療安全管理体制の整備が法律や診療報酬制度によって求められている。支援センターと医療機関等の相談員等は、いずれも、地域住民・患者の安全・安心を確保するために設置されている。

日、同じ地域にあり、地域住民・患者の安全・安心を確保するために設置されている支援センターと医療機関の相談員等が連携して地域住民・患者の安全・安心の確保を図る事は必定ある。

1年目の研究結果として、地域の医療機関と支援センターの連携の推進が課題となった¹⁾ことから、2019年度の全国協議会のプログラムを別紙2の通り、支援センターと医療機関の相談員の連携の実態についての講演を取り入れるなど、連携の推進について検討するプログラムとして実施した。

そこで、本研究では、この「全国協議会」

に参加した支援センターの職員及び医療機関の患者相談窓口の職員等の中から、研究協力を得た参加者を対象に、質問紙調査を行い、支援センター総合支援事業として行われている研修に対するニーズや研修のあり方を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

1. 調査対象

支援センター総合支援事業として行った「2019年度 全国協議会（プログラム資料2）」の参加者の内、研究協力の了解を得られた全国医療安全支援センター相談員及び医療機関の医療安全管理者等94名

2. 調査日時

2020年1月24日（金） 13:00～16:30の「2019年度 全国協議会」の研修終了後

3 場所

東京都千代田区丸の内 1-6-5 丸の内北口ビル15・16階 フクラシア丸の内オアゾ研修室

4. 協議会終了後のアンケート（資料2）

アンケートの構成は次の通りとした。

- (1) 回答者の所属・職種等をたずねるフェイスシート
- (2) 各講義について講義ごとに、①講義内容は理解できたか(以下、理解度)、②今後の業務に活用できるか(以下、参考度)、③講義についての意見・感想の回答を、①②は四肢選択、③は自由記載で求めた。
- (3) 全国協議会全体への意見・感想(自由記載)

(倫理面への配慮)

アンケートは匿名で実施し、A4、2ページで参加者の回答の負担は大きくないと考える。全国協議会開始前に、研究者より参加者へアンケートの趣旨を口頭で説明し、了解の得られた回答のみを分析した。

C. 研究結果

1. 回答者数とその属性

参加者97名中、94名から回答を得た(回収率96.9%)。アンケートのフェイスシートの記載から分かった回答者の属性は、表2の通りであった。その他は、研究・教育機関や企業などに所属する人であった。今回は、支援センターと医療機関との連携の推進に関する課題であることから、支援センターに所属する52名と、医療機関に所属する33名、合わせて85名の回答を分析対象とした。

なお、研究協力者が参加してのディスカッションから、支援センターに所属する人と医療機関に所属する人の間では、また、医療職と医療職以外(行政・事務職)の間では、関心や学習ニーズが異なる可能性があると考えられたため、所属と職種の視点から、以下の集計・分析を行うこととした。

2. 所属・職種別の「理解度」

回答者を、支援センター医療職、支援センター行政・事務職、医療機関医療職、医療機関事務職の4群に分け、各講義の理解度について、「非常に理解できた」または「理解できた」と回答した人の割合(%)を表3に示した。群名の欄の()内の数字は各群の人数を示している。

各講義に対して、4群とも、約90%以上が肯定的な選択肢である「非常に理解できた」または「理解できた」を選択していた。その中で、医療機関の医療職の群では、医療安全支援センターからの報告³⁾⁴⁾の講義に着いて、他の群と比べると肯定的な選択をした

人の割合が低かった。

3. 所属・職種別の「参考度」

上記の理解度と同様に回答者を4群に分け、各講義の参考度について、「非常に参考になる」または「参考にできた」と回答した人の割合(%)を表4に示した。

参考度の評価については、講義によるばらつきがあることが分かった。講義3)4)は、支援センター職員による評価が医療機関より高かった。講義5)は、医療機関の医療職からの評価が他の群の評価と比較して相対的に低かった。

4. 自由記載による意見・感想

(1) 記載内容についての検討

アンケートの自由記載から、今後の研修や情報提供の取り組みの参考となると考えられたものを以下に抜粋した。

【支援センターからの参加者の意見・感想】

- ・支援センターと医療機関との連携の必要性は理解できるが、具体的な形や方法が不明。
- ・連携していくための人材がない所もある。
- ・支援センター・医療機関との連携どこまで求められているのか。
- ・支援センターの認知度についてどうなのか。
- ・行政と医療機関との連携は必要だと思えた、情報共有をしていきたい。
- ・医療機関との連携は大切と思うが、その方法を模索している。
- ・行政・医療機関双方のやっていることが知れて良かった。
- ・相談員どうしの情報交換・意見交換の場を設けて頂ければと思う。
- ・県内の各地域の中核病院と事例を話し合う機会を設けているが年1回程度。

- ・診療所との連携はどうすればよいのか。
- ・研修会をもっと連携させてもらっているところである。
- ・研修会を増やして欲しい。

【医療機関からの参加者の意見・感想】

- ・医療安全支援センターとの連携は考えていなかった。これからは意識したい。
- ・地域によって支援センターの相談事例も違うだろう。
- ・支援センターから連絡が来た場合の対応を考えないといけない。
- ・院内で終えられることと支援センターとリンクしていることもあると感じた。
- ・「連携」といっても実態は支援センターから医療機関への一方向の「情報提供」であることが分かった。
- ・相談員同士のネットワークがありません
- ・医療機関のネットワークはできているが、支援センターと連携が出来ていない。
- ・医療安全支援センターとの連携の重要性を学びました。
- ・すべての都道府県の安全センターが医療安全者への研修をしているのでしょうか。
- ・当院の管轄保健所からの勉強会の案内をもらったことはない。
- ・日常からも支援センターと病院等と継続して交流できるといいと思う。
- ・院内外の情報を共有し、自院のこととして共感することが質向上になると感じた。なお、「参考資料」として、各講義についての意見
・感想と、全国協議会全体の意見・感想を、支援センター職員からのものと、医療機関職員からのものとに分けて示した(参考資料)。

(2) 出現した単語についての検討

自由記載の全体を、AIテキストマイニング(株式会社ユーザーローカル)にて、単語

の出現頻度について分析した。一方の参加者からの記述にだけ出現した語、一方によく出る語、両方によく出る語の5つに分類したものを表5に示した。支援センター(行政)職員の記述には、「兼任」、「専任」、「非常勤」、「行政」、「窓口」、「相談員」など、自分の現在の立場・状況に関わる語が見られた。

次に、基調講演、支援センター(行政)の取り組み、医療機関の取り組みの3種類の講義への感想について、同じAIテキストマイニングのワードクラウドにより、出現した単語を抽出しスコアの高さを文字の大きさで表示した(図1~3)。

支援センター(行政)からの参加者の感想においては、基調講演では「医療事故調査」が、医療機関の取り組みの講義については、「臨床」・「取り組み」「管理体制」などが関心の高い語として表示された。

D. 考察

上記の結果から、以下のことが考察される。

今回の全国協議会のプログラムは、大きく、前半(厚労省からの講義と基調講演)の「知識・情報の提供」と、後半(支援センターと医療機関の報告)の「活動報告」から構成されていた。所属や職種に関わらず、厚労省からの情報提供や基調講演が肯定的に評価されていることから、「知識・情報の提供」へのニーズがあると考えられる。一方、「活動報告」については、どの報告についても理解できると評価されていたが、どのような活動報告がより業務の参考となるかについては、参加者の立場によって認識が異なっていることが推察された。自分の所属や業務に近い報告がより参考になると評価される傾向であった。

また、全体として、支援センターの職員と医療機関からの参加者とでは、講義の受

け止め方に差があることも推察された。

支援センターの参加者からは、「医療機関の安全管理についてこれまで知らなかった」という声が聞かれた。医療機関の参加者からは「支援センターの活動について、これまで知らなかった」という声もあり、全国協議会は、それまで知る機会のなかった情報を得るきっかけになったと考えられる。

参加者のニーズに合った内容と共に、それまで参加者が関心を持っていなかった内容も含む多角的な研修を企画し、参加者の視点を広げることも望まれる。

なお、今回は、各講義において支援センターと医療機関との連携について触れてもらったことや、参加者に両方の立場の人がいたことから、支援センターと医療機関の連携の重要性が理解されたことがアンケートから分かった。しかし、必要性は分かっても、具体的な方法が分からない、現実的には難しいとの意見もあった。連携の意義を学ぶとともに、先進例を示すなど、連携の実践に結び付く情報提供が今後必要と考えられる。

今回、医療機関からの参加者は、医療の質・安全学会の会員へのメールを通しての募集であったため、参加者が必ずしも相談を担当する職員ではなかったことも、講義への関心や理解に影響をおよぼしている可能性がある。今後、連携を目的とした研修等では参加者の募集方法にも検討が必要である。

E. 結論

支援センターの職員は、相談業務に役立つ知識や具体的な情報を求めていることが分かった。また、支援センターと医療機関の職員は、互いの活動についての知識が不足していると考えられ、今後の連携のためには、さらなる情報共有が必要である。

F. 参考文献

1) 遠田光子他、医療安全支援センターと医

療機関内患者相談窓口における連携と人材育成、医療の質・安全学会第14回学術集会抄録p492、2019、京都

図表

表 1 実施された講義の講師と主な内容

	講師	所属	主な内容
1)	赤澤 仁司	厚生労働省医政局総務課	医療安全施策の動向
2)	山口 育子	COML	相談対応に必要な制度や情報
3)	白子 千春	東京都福祉保健局	支援センターの取り組み
4)	和田 修幸	川崎市健康福祉局	支援センターの取り組み
5)	佐々木久美子	医療法人社団直和会・社会医療法人社団正志会	医療機関の安全管理 (中小医療機関)
6)	中澤 恵子	東邦大学医療センター大森病院	医療機関の安全管理 (大学病院)

表 2 アンケート回答者の属性ごとの人数

		医療職	医療職 以外	計
支援センター	都道府県庁	9	8	52
	保健所設置市区 ・特別区	17	11	
	二次医療圏センター	5	2	
医療機関		28	5	33
その他		7	2	9
計		66	28	94

表 3 所属・職種別の各講義の「理解度」の評価

	1)厚労省	2)基調	3)東京	4)川崎	5)中小規模	6)大規模
支援センター 医療職 (31)	96.8	100	96.8	96.8	96.8	93.5
支援センター 行政・事務職 (21)	100	100	95.2	90.5	95.2	100
医療機関 医療職 (28)	96.4	100	89.3	89.3	92.9	100
医療機関 (事務職) (5)	100	100	100	100	100	100

表 4 所属・職種別の各講義の「参考度」の評価

	1)厚労省	2)基調	3)東京	4)川崎	5)中小規模	6)大規模
支援センター 医療職 (31)	93.5	100	93.5	80.6	93.5	87.1
支援センター 行政・事務職 (21)	95.2	100	95.2	76.2	95.2	90.5
医療機関 医療職 (28)	82.1	92.9	82.1	60.7	75.0	92.9
医療機関 事務職 (5)	100	100	80.0	80.0	100	100

表 5 自由記載の単語の出現頻度による分類

医療機関から参加にだけ出現	医療機関から参加によく出る	両方によく出る	行政から参加によく出る	行政から参加にだけ出現
いい 院 既知 うれしい つらい 大きい 寒い 興味深い 賢い 近い メンタルヘルス リンク 側 共感 取り組み 問題 家族 情報提供 納得 身 重要性 障害 項目 おく 違う つなげる なれる わかる 付ける 仰る	医療 ほしい 安全 患者 病院 できる しやすい 知る 具体 参加 場合 報告 いただける 出来る 行う	思う 分かりやすい 多い 難しい 参考 センター 対応 連携 内容 支援 研修 よい 医療機関 短い 事例 医療安全支援センター 立場 分かる 聞く 理解 知識 頂く 保健所 もらう 具体的 情報 案内 いただく 持つ 考える	相談 いく 感じる 相談員 必要 お話	ありがとう 良い 兼任 大変 専任 受ける 窓口 かかる 行政 非常勤 くださる ありがたい かゆい 深い 聞き取りにくい 聞き取りやすい 知れる 設ける 話す

注) 単語の色は青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表している。

参考資料

1. 支援センターからの参加者の各講義についての意見・感想

厚労省講演：支援センターの参加者から	
1	支援センターと医療機関との連携をということは理解できたが支援センターとしてはあくまで中立な立場で相談を受けており、具体的にはどのような形で連携することがより良い形なのか考えていく必要があると感じた。
2	担当が25条立ち入り担当と兼任1名であるため、センターとして医療機関に話をするのが難しい、保健所が指導しているという形にとられる。相談者からも保健所に対して話をしているという認識を受けることがほとんど。地域医療機関に直結して、、、というのは理想的かもしれないがセンターといっても一人だけの医務担当の業務の一部である現状では、人員的にも体裁的にも難しいところがあります。
3	研修の回数を増やしてほしいです。
4	医療機関との連携を今後どのようにするかの参考となる講演をありがとうございました。医療安全支援センターのスタッフとして昨年度行われた「上手な医療のかかりかた」はどのようにかわりますか？「上手な医療のかかり方」は「新・医療にかかる10か条」に変わりますか？について機会があれば教えてください。
5	医療安全施策の動向については出された通知を見るだけであつたため実際に厚労省の方から説明を頂き大変参考になりました。
6	応召義務については医療安全支援センターでの相談の上で色々情報を持ちたいところです。
7	医療機関側から見ると支援センター側の全体像はあまりよく分からないので
8	医療安全体制について改めて見直す機会になった
9	改めて自分の役割と対話推進者との連携の必要性を学べた
10	この研修に参加される方は知っていることだと思います。厚労省の方のお話が聞けるのなら、今問題となっていることや、その対応、具体的に何を求めているのか知りたいです。

基調講演（山口氏）：支援センターの参加者から	
1	非常に分かりやすかった。具体的な対応が勉強になった。もっと聞きたい、様々な知識が得られた。
2	何度聞いても気づかされることもあり大変でも取り組んでいこうと思いました
3	かゆいところに手が届く内容でした
4	事例に基づき分かりやすかったです。
5	制度に関すること、日々の対応等に苦慮しているもので参考になりました。
6	今後もこのテーマでの研修を企画していただけるとありがたいです。
7	相談を受けて、回答する際の参考になることが多く、今後に活かしていきたいと思います。
8	認知症(と思われる80代の女性が)の方が何度も電話されて困るというよりもかわいそうで対応に苦慮しています。
9	医療事故調査制度をしっかりと把握したいと思います。
10	事故調について一般住民への啓発が必要だと改めて感じました。
11	医療費のお話は中途半端な知識で間違ってもいけないと思い、担当課を紹介してしまう
12	私の行政の相談員よりも対応知識があり、勉強になった。

東京都福祉保健局：支援センターから	
1	規模の違いがあり同じように医療機関と連携するのは難しいと思いました。
2	協議会の内容参考になりました。
3	東京都へ相談者を案内することもあり仕組みが分かった。
4	自分が置かれている立場以上の相談対応の多さに驚いた。
5	支援センターからすべての事例をHPに報告しているわけではないという点、具体的に数字を出して報告してもらえてよく分かりました。
川崎市健康福祉局：支援センターから	
6	自治体の医療安全支援センターの課題として関係のことが多かった。
7	相談員の確保はとても大変なんだと感じた。
8	立ち入り検査時にHPと連携されていること参考になりました。
9	他の自治体のセンターの状況が分かって参考になりました。
10	昨年の台風の時ほどどんな相談が増えたか医療安全支援センターとして対応したことがあったか知りたかったです。

中小規模医療機関：支援センターから	
1	他機関との連携が印象的でした。
2	“おひとりさま”のワークショップが印象的でした。
3	現場の状況がよく分かりました。
4	医療安全の向上を目指す姿勢が知れてよかった。
5	病院有床診療所を対象にした医療安全推進担当者連絡会を年に二回開催しています。研修会で知識を得るだけでなく、語る、情報交換をするという場をこれからも続けていきたいと思います。
大規模病院医療機関：支援センターから	
6	臨床にいたころオペ中のIA報告が遅くなってしまい指導されたことがあったが当時は病院内にこういう部署がありどうしているということをつかずに仕事をしてしまっていた。若い(新卒など)人たちに病院は臨床以外どんなことをしているのか今回のこの話を聞いて知っておけるとよいと感じた。
7	とても素晴らしい取り組みをされていると思い、感動した。他の病院の取りくみはどうなのか気になった。
8	組織として高度すぎて参考にならない。すごい一言である。
9	実例を挙げてわかりやすかった。さすが東京の大学病院ですね。総合相談部の存在が素晴らしい。各部署がばらばらになっていない。
10	現場の状況がよく分かりました。
11	PTの声に対して組織できちんと対応できていて素晴らしいと感じた。
12	さまざまな職種の方がメンバーとなっていて参考になりました。管理体制が徹底されていて参考になりました。
13	館内にここまでの規模の病院がないので取り組みのすばらしさに驚きました。とても聞きやすかった

2 支援センターからの参加者の全国協議会全体等についての意見・感想

全体的な感想：支援センター参加者から	
1	センターと医療機関の連携というテーマだったが期待した内容ではなく、やはり有機的な連携は困難と感じた。
2	支援センターとしてどこまでの病院との連携を求められるのでしょうか。支援センターの認知度についてどうなのかギモンです。
3	医療機関との連携は大切と思いますがその方法を模索しています。
4	行政と医療機関との連携は必要だと思えた。情報共有をしていきたい。
5	行政医療機関双方のやっていることが知れて良かったです。
6	相談員どうしの情報交換意見交換の場を設けて頂ければと思う。
7	県内の各地域の中核病院と事例を話し合う機会を設けている。年1回程度。
8	診療所との連携はどうすればよいのか。管理者への架電を必要時はしますが、連携まではいかないと感じる。研修会をもっと連携させてもらっているところでは
9	保健所設置市であったため県との連携は重要だと考えていますがまだ不十分に思っています。ただ、市役所では「何でも屋」のような相談窓口だったのが医療相談窓口として理解してもらいつつあるように思います。当課からの説明もあり、対象部署が市民の相談に答えてくれると思います。
10	非常勤職員はほかの自治体と連携することはなく、医薬系の正規職員は東京都の開催する連絡会、研修会に参加することがある程度。
11	医療機関との連携は協議会と研修会です。他の安全支援センターとのつながりはありません。
12	実務的な部分についての講義もあるとより参考になるのではないかと思います。
13	事例を挙げて大変分かりやすいです。

3.医療機関からの参加者の各講義についての意見・感想

厚生労働省講演：医療機関参加者から	
1	医療安全体制について改めて見直す機会になった
2	今問題となっていることや、その対応、具体的に何を求めているのか知りたいです。
3	改めて自分の役割と対話推進者との連携の必要性を学べた
4	医療機関側から見ると支援センター側の全体像はあまりよく分からないので

基調講演（山口氏）：医療機関参加者から	
1	医療に主体的に参加してもらうために苦情などから地域の患者向けに研修会を行ってみたいと思いました
2	改めて知ること、知っておくことより患者対応につなげていくことが出来ると思いました。
3	支援センターで行うべきことあり方を理解できた
4	自治体とのネットワークはないと思います。患者や支援センターとの存在を知らないと思う
5	診療報酬に関して既知の内容が多かった
6	具体的に抑えておくべきことを知ることが出来た
7	先生の講習さらに参加させて頂き、患者のケースに少しでも寄り添えるようになりたい
8	相談を聞く際持っていた知識が役に立ちました。特に、信者同封罪「患者様が賢くなれるような（そうなってもらいたいです）」「協仰」を見て頑張ります
9	具体的な事例で分かりやすかった
10	結果が期待と違う場合に医療事故だと思われる方もいる。特に障害が残った場合何度説明しても納得していただけない。お気の毒だと思うが、話を聞くことしかできない。患者家族に引っ張られるということが身に沁みました。気を付けなければと思う
11	パーソナル障害の方への対応の原則を決めているが個人のスキルが追いつくことが難しいと感じています。「患者のために」の許容が難しいです
12	日々の対応で気になる点についてとても参考になりました。知識を持つことの重要性を痛感しました

東京都福祉保健局：医療機関参加者から	
1	相談対応者のメンタルヘルスを病院で行うことは難しいが、とても大切だと思っている。同じく医療安全専従者のメンタルヘルスにも興味がある。
2	具体的な事例の紹介があればもっとよかった。
3	基調講演との内容がリンクされていたため内容が分かりやすかった。
川崎市健康福祉局：医療機関参加者から	
4	保健所立ち入り検査の時に情報提供をされているのはいいと思いました。
5	相談対応者のメンタルヘルスはやっぱり課題なのだと理解できた。
6	センターへの課題を率直に語っていただけて納得させられた。
7	地域性が分かり参考になりました

中小規模医療機関：医療機関参加者から	
1	医療安全管理者の苦悩について同じ立場で働く身として共感できた。
2	同様規模の施設に勤務していたので参考になりました。ワンオペはつらいのはわかっていただけでうれしかったです。
3	中小病院だけでなく大きい病院も近い問題を抱えている人が多いかもしれませんと思いました
大規模病院医療機関：医療機関参加者から	
4	具体的な取り組み報告でとても参考になりました
5	相談項目により、誰に対応するのか参考になりました。
6	医師のレポート提出を促すのに有効な項目の詳細を教えてください
7	大病院がなぜこのような取り組みが必要だと感じ取り組んだのかを知りたいです
8	自院でも参考にしたい取り組みの内容があった
9	貴院の体制を示していただき、とても参考になりました。当院でも参考にしていきたいと思ひます

4.医療機関からの参加者の全国協議会全体等についての意見・感想

全体的な感想：医療機関参加者から	
1	正直医療安全支援センターとの連携は考えていませんでしたが、これからは意識していこうと思う。
2	地域によって支援センターの相談事例も違うだろうし、まだ連絡が来てはいないが来た場合の対応を考えないと思った。院内で終わられることとリンクしてしますこともあるなど。
3	「連携」といっても実態は支援センターから医療機関への一方向の「情報提供」であることが分かった。
4	相談員同士のネットワークがありません
5	医療機関のネットワークはできているが、支援センターと連携が出来ていない
6	医療安全支援センターとの連携の重要性を学びました。すべての都道府県の安全センターが医療安全者への研修をしているのでしょうか。当院の管轄保健所からの勉強会の案内をもらったことはないのですが、、
7	日常からも支援センターと病院等と継続して交流できるといいと思います
8	院内外の情報を共有し、自院のこととして共感することが質向上になると感じた。
9	患者家族の立場の演者が増えると聴講しやすいと思いました。興味深い内容でした。
10	それぞれの立場の方への報告を聞かせて頂き参考になりました
11	現場にとって分かりやすくすぐに使える医療安全情報を研修させて頂きたい

2019年度 医療安全支援センター全国協議会 アンケート

2020年1月24日（金）開催

本日は、医療安全支援センター全国協議会にご参加いただきありがとうございます。今後の協議会開催の参考とさせていただきますのでご協力よろしくお願いいたします。各項目で該当するものに□にシ点を願います。（ ）や空白には自由記述で記載をお願いいたします。

I. 回答くださる方について

- ①ご所属機関 都道府県庁 保健所設置市区及び特別区 二次医療圏センター
 医療機関（病院・医院等） その他（ ）
- ②勤務先の都道府県（ ） 都・道・府・県
- ③ 職種 医師 薬剤師 保健師助産師看護師等 その他医療専門職
 福祉職 行政職 事務職 その他
- ④ 相談員としての相談業務の割合 専従 専任 兼任 その他
- ⑤ 支援センター（相談窓口）での従事期間（ ）年（ ）月（医療機関は回答不要）

II. 各講義についてお答えください

1. 医療安全施策の動向と医療安全相談支援センターに期待すること（厚生労働省）

①講義内容は理解できましたか

非常に理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった

②今後の業務への活用について

非常に参考になる 参考になる あまり参考にならない 参考にならない

③意見や感想をお書きください

（ ）

2. 『基調講演』相談対応をする上で押さえておきたい制度や情報（講師：山口育子先生）

①講義内容は理解できましたか

非常に理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった

②今後の業務への活用について

非常に参考になる 参考になる あまり参考にならない 参考にならない

③意見や感想をお書きください

（ ）

3. 医療安全支援センターの取り組みと地域の医療機関との連携

◆1) 講師：白子 千春 先生 東京都福祉保健局

①講義内容は理解できましたか

非常に理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった

②今後の業務への活用について

非常に参考になる 参考になる あまり参考にならない 参考にならない

③意見や感想をお書きください

()

◆2) 講師：和田 修幸 先生 川崎市健康福祉局

①講義内容は理解できましたか

非常に理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった

②今後の業務への活用について

非常に参考になる 参考になる あまり参考にならない 参考にならない

③意見や感想をお書きください

()

4. 医療機関の安全管理と地域の医療安全支援センターとの連携

◆1) 講師：佐々木久美子先生 医療法人社団直和会・社会医療法人社団正志会本部

①講義内容は理解できましたか

非常に理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった

②今後の業務への活用について

非常に参考になる 参考になる あまり参考にならない 参考にならない

③意見や感想をお書きください

()

◆2) 講師：中澤 恵子 先生 東邦大学医療センター大森病院

①講義内容は理解できましたか

非常に理解できた 理解できた あまり理解できなかった 理解できなかった

②今後の業務への活用について

非常に参考になる 参考になる あまり参考にならない 参考にならない

③意見や感想をお書きください

()

5. その他（全国協議会の内容等全体的な感想やご意見をお聞かせください）

()

2019 年度 『医療安全支援センター全国協議会』

一般社団法人医療の質・安全学会医療安全支援センター総合支援事業（厚生労働省補助金事業）

目 的：医療安全支援センターと医療機関との地域連携を強化し患者相談支援の質向上を図る

日 時：令和 2 年（2020 年）1 月 24 日（金）13 時 00 分～16 時 30 分

場 所：フクラシア丸の内オアゾ（東京都千代田区丸の内 1--5 丸の内北口ビルディング 15）

参加者：医療安全支援センター関係者・医療機関の医療安全管理者

参加申込：医療安全支援センター全国協議会申込フォーム

（https://regconf.com/anzen_jm2019/）からお申込みください。

申込期間：2019年10月28日（月）～2019年12月27日（金）

定員：150名（先着順）※定員になり次第締め切りとさせていただきます。参加費用：無料

【プログラム】

時間	内容	講師（演者）（敬称略）
13：00 ～13：05	開会挨拶	児玉安司（医療の質・安全学会理事 一橋大学法科大学院 客員教授 新星総合法律事務所（弁護士）
13：05 ～13：25	医療安全相談支援センターに期待 すること	赤澤 仁司（厚生労働省医政局総務課医 療安全推進室 医療安全対策専門官）
13：25 ～14：50	『基調講演』：相談対応する上で 押さえておきたいこと	山口 育子（認定 NPO 法人ささえあ い医療人権センターCOML 理事長）
14：50	休憩	
15：00 ～15：15	医療安全支援センターの取り組み 地域の医療機関との連携（仮）	白子 千春（東京都福祉保健局 医療政策医療安全課 指導担当）
15：15 ～15：30	医療安全支援センターの取り組み 地域の医療機関との連携（仮）	和田 修幸（川崎市福祉局保健所 医事業薬事課 課長補佐）
15：30 ～15：50	医療機関の安全管理と相談支援セ ンターとの連携	佐々木久美子（医療法人社団直和会・社 会医療法人社団正志会本部 看護部業務 担当部長）
15：50 ～16：10		中澤 恵子（東邦大学医療センター 大森病院 看護副部長）
16：10～	質疑応答	
16：20 ～16：25	閉会挨拶	嶋森 好子（岩手医科大学 看護学部長 医療の質・安全学会副理事長）
16：30	アンケート記入・終了	